

患者さんの人生最期の日まで、 豊かな生活を支え続ける 訪問看護のパイオニア

秋山正子氏は、日本で訪問看護制度が創設された1992年当初より訪問看護師として活動を開始。パイオニアとして在宅ケアの推進に大きく貢献してきた。

出身は秋田市土崎港。9人兄弟の末っ子で産声を上げたのも病院ではなく「自宅」であった。高校1年生の頃、在宅療養の末に父を自宅で看取った。その経験から看護の道を目指して聖路加看護大学に進学。卒業後、産婦人科病棟に勤務し医療に従事した。

1990年、秋山氏が30代の頃、実姉が末期がんを宣告された。姉とその家族は、余命を可能な限り自宅で家族と過ごしたいと望み、秋山氏は肉親として、また一人の看護師としてその想いを支えた。姉が家族と過ごす様子を見ながら「家で暮らすことには、底知れぬ力がある。それを支える仕事かしたい」と思い、その頃はまた在宅医療制度が十分に整っていない環境下、在宅医療ケアに取り組んだ。現在は東京都内を中心に訪問看護活動を展開。株式会社ケアーズの代表取締役、白十字訪問看護ステーション統括所長として看護管理者、



あき やま まさ こ
秋山 正子 Masako Akiyama

株式会社ケアーズ 代表取締役
白十字訪問看護ステーション 統括所長
CEO & Director, Hakujuji Visiting Nurse Station

秋田県出身。1973年聖路加看護大学卒業。産婦人科病棟にて臨床経験後、看護教育に従事。1992年より訪問看護に携わる。2001年株式会社ケアーズ設立。白十字訪問看護ステーション・白十字ヘルパーステーション統括所長として現場を訪問する傍ら、介護サービス事業者協会や地域看護業務連絡会の委員を務める。また看護学部非常勤務講師、30年後の医療の姿を考える会会長、NPO法人白十字在宅ボランティアの会理事長。著書に「在宅ケアの不思議な力」や「在宅ケアのつなぐ力」(医学書院)など。

推薦者 **磯田 文雄** 文部科学省 高等教育局長

経営者として活躍する傍ら、訪問看護ステーションの後進スタッフ指導や多くの看護系大学や専門学校での学生指導を通じて、在宅ケアを支える地域医療人材育成に貢献している。

さらに、NPO法人白十字在宅ボランティアの会理事長として、地域を支えるボランティア育成活動にも携わり、地域の高齢者が住み慣れた場所で、安心して豊かな生活が営めるよう「聞き書きボランティア」の養成にも取り組んでいる。聞き書きボランティアとは人生の先輩であるお年寄りに、どう生きて来られたかを語っていただき、聞き手はその経験・体験・知識・知恵を後世に伝える橋渡しをするもので、地域における世代間交流の促進と共に高齢者の地域社会への参加を促す活動である。それに加え、厚生労働省主催の「チーム医療推進のための看護業務ワーキンググループ」の委員として、在宅ケアを支える立場から今後の看護業務の在り方を検討している。

その他、自ら著書を執筆しメディアの取材に応じるなど広報活動にも積極的に取り組む、訪問看護の奥深さと魅力を多くの人々に伝えている。

秋山氏は、これからも訪問看護師として在宅で療養する患者さんの豊かな生活を支え、看護管理者・教育者として在宅ケアの質向上に貢献しながら、地域の絆づくりにも尽力し続ける。



■訪問看護について講演する秋山氏



■秋山氏の訪問看護風景



■相談者と親身に話す秋山氏